2019・ZERO展 受賞作品

この度は松井正賞という素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。今年は、自身で持ち運びが出来る大きな作品を制作したい！という所から、F20号のキャンバス8枚を繋ぎ合せた作品にしました。普段猫を描く事が多かったのですが、ひょんな事から飼い始めた保護猫をモデルに描きました。三毛猫のミステリアスさと、元野良の力強さを作品に込めました。今後も、他作家さんから良い刺激をいただきながら、楽しく作品作りに取り組んでいきたいです。

松井正賞
わらびもち「Tortoiseshell Cat」(アクリル)

①

②

③

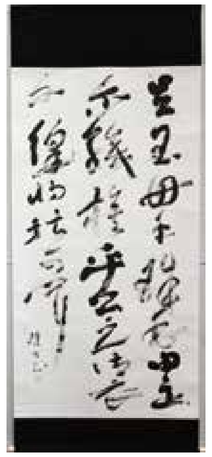
④

⑤

⑥

⑦

⑧

⑨


⑩

⑪

⑫

⑬

① 会員賞／門久榮治(水彩) ② 会友賞／Kanto Tsuji(プリント) ③ 大阪府知事賞／渡邊帆南美(ブラックライトインク) ④ 大阪市長賞／根岸真理(木彫) ⑤ 朝日新聞社賞／宮下真巳(ガラス) ⑥ 兵庫県知事賞／小西聡甫(押絵) ⑦ 兵庫県議会議長賞／有馬真美子(水彩) ⑧ 兵庫県教育委員会賞／森口朝光(版画) ⑨ 大阪市立美術館館長賞／山野井珠几(書) ⑩ 堺市長賞／井上翔太(陶芸)
⑪ 0号展大賞／高澤圭多
⑫ 0号展会賞／小空
⑬ 0号展会賞／Katekin

来年は20周年記念展! あなたも、ZERO展で作品を発表しませんか？

ニューアート・ZERO会は、2000年「新しい世紀に新しい創造」をテーマに理想の美術団体にしようと設立されました。毎年、春季に原則大きさ無制限の「ZERO展」を大阪市立美術館で、夏季または秋季にF0号レベルの小品を集めた展覧会を大阪市内のギャラリーで、それぞれ行っています。年齢・経歴・国籍・地域を一切問わず、平面・立体とも技法を問わないという自由な発表の場を提供する美術団体として、毎年多数の出品者及び入場者を集めています。

「ニューアート」という名称は、ともすれば、従来の伝統的な美術を否定する現代美術専門の会と誤解されがちですが、決してそんなことはありません。伝統芸術から現代美術まで、ジャンルにこだわらず「良いものは良い」というスタンスを徹底しており、作家名やキャリア、ましてや流派や師弟関係などは一切伏せ、純粋に作品のみで入選・入賞の審査を行っている当会の姿勢、展覧会のあり方を、従来型の公募美術団体と異なるものとして「ニュー」と称しております。

作品の技法や主題に「古い／新しい」はなく、自由な精神で真摯に表現を追求する作家の姿勢を尊重します。あなたのご参加を心よりお待ちしております。

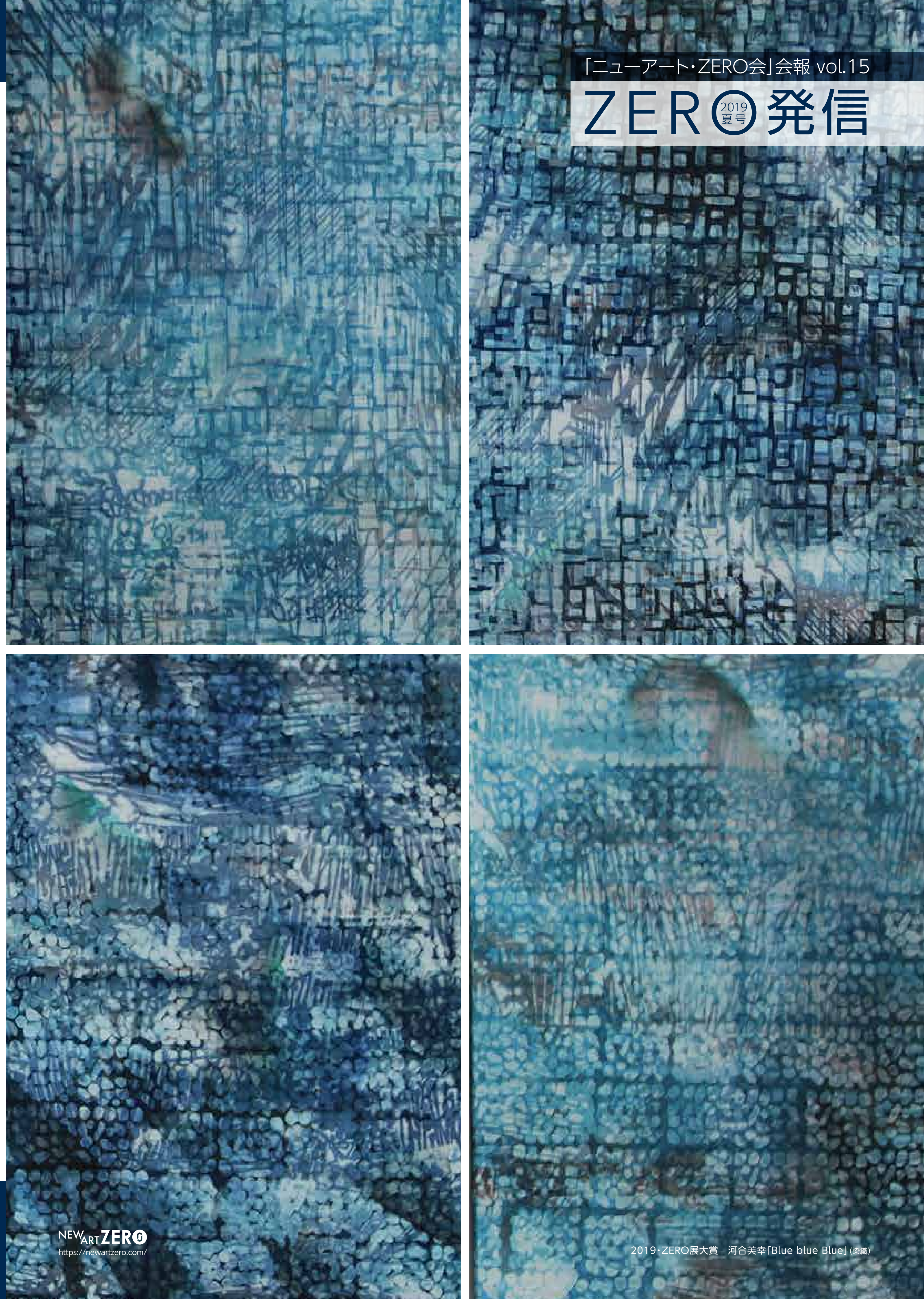
20周年特別記念賞設定！
2020・ZERO展
[本展][0号展][子どもの部]

募集要項　2019年10月リリース
募集期間　2020年1月1日〜1月31日
展覧会　2020年2月25日〜3月1日
大阪市立美術館(天王寺公園内)

NEW ART ZERO
https://newartzero.com/
事務局所在　〒530-0052 大阪府大阪市北区南扇町7−2 ユニ東梅田412　栗木 浩
お問い合わせ　電話 090-3823-7150 栗木(くりき)　メール office@newartzero.com

「ニューアート・ZERO会」会報 vol.15

ZERO 2019夏号 発信



NEW ART ZERO
https://newartzero.com/

2019・ZERO展大賞　河合芙幸「Blue blue Blue」(染織)

2019・ZERO展 受賞者座談会

進行　竹垣恵子

河合芙幸+久保田晴名+大濵千尋

今年のZERO展では、若い女性の入賞作家が目立ちました。なかでも、大賞の河合芙幸さん、新人賞の久保田晴名さん、塚本学院校友会会長賞の大濵千尋さんの3名は、大阪芸術大学出身で、大学院に進学したり、副手として勤務したりと、似た環境で制作を続けて来られたというバックグランドがあります。そこで、今回は、ZERO会会員で同大学准教授の竹垣恵子先生のアトリエに集まってもらい、先生を交えて座談会形式でお話をうかがいました。

竹垣　今日はお忙しいなか、みなさんお集まりいただきありがとうございます。早速ですが、まずアートの世界に入ったきっかけを聞かせてください。

久保田　日曜画家だった父の影響だと思うんですけど、小さい頃から絵を描くのは好きだったんです。中学の時も美術部で、高校も美術科に進んで、油画とか彫刻とかデザインとか勉強して、その中で銅版画に出会いました。
ニードル（針）で細部にわたって描き込めるところに惹かれました。

河合　私も子どもの頃から絵が好きで、美術系の高校に進学しました。
高校では1年生で絵画、版画、デザイン、イラスト、工芸を一通りやりました。そのなかで、油彩や美術史にも惹かれたんですが、染織に一番興味を持ちました。母が着物好きで、私も小さい頃三味線を習ってたというのもあって、着物が身近にあったからかもしれません。

大濵　私も、父が美大出身で美術の教員をやってたからか、物心つく前から絵が好きで。高校はお二人と違って普通科だったんですけど。美術部に入って、絵の好きな仲間たちと油絵を描いていた時間が自分にとってすごく貴重な時間でした。本来の自分に戻れる、みたいな。
いわゆる進学校だったので、芸術系以外の大学も受験しましたが、芸大も受験したんです。学科で悩んだときに、「工芸、面白いんちゃう」っていう父の一言で、軽い気持ちでやったこともないのに工芸学科に。

竹垣　河合さんは最初から染織って決めてたみたいやけど、大濵さんは？

大濵　1回生のときに、工芸の4コース（ガラス、陶芸、金工、染織）一通りやるんですけど、染織がいちばん自分に合ってるなと思って。高校で絵を描いているときは、自分のペースで自由にやれてたんですが、工芸には手順とかいろいろ約束事があって、最初はすごく戸惑って、進路を間違えたかもって後悔したこともあったんですけど、周りに助けられました。みんな退路を断って、この道に邁進するんやっていう雰囲気に励まされました。

河合　私は逆に、高校のときに一通りやってたので、1回生のときは、正直「またか」と面倒に思ってました。染織だけやりにきたのにっていう思いで。後になって、やっぱり一通りやっといて良かったって思うんですが。

竹垣　久保田さんは美術学科やけど、やっぱり高校の繰り返しって思った？

久保田　そうですね、やっぱり最初はちょっと退屈には思いました。デッサンとかさぼってしまったり。体育会の役員とか勉強や制作以外のことに夢中になってました。3回生から銅版画を専攻したんですが、自由にやらせてもらえる中で、当時の私にとっては、逆に何をしたらいいんだろうって、悩みながら制作していました。

竹垣　それでも大学院に進学したのは？

久保田　やはり学部時代にちゃんと制作に向き合わず、やり残した感があったので、リベンジしたいっていう思いから進学しました。そのまま副手もして。

竹垣　河合さんも進学したよね。

河合　私の場合は、学部時代も充実していました。みんな仲がよくて、助け合って、でもなあなあじゃなくて、しっかり意見を言い合えるような関係で。ただ、まだ自分の作品に集中したいと思って。それで大学院で研究を続けて修了して、その後に副手になりました。副手時代には、色んな先生のお手伝いをしますから、それまで臈染め一本だったのが、色んな技法を学ぶ直す機会になって、視野が広がったというか、楽になりました。

竹垣　大濵さんは、進学せずに副手になったけど。

大濵　制作に対して、ずっと、やめたいという気持ちと、やりたいという気持ちを行ったり来たりしていて。卒業を前にして、自分は自信をもって染織を学べたとは言えないなと思って。それで、先生のお手伝いをしながら色んな技法をつまみ食いというか、一通り基礎をおさらいできると思って副手に。

竹垣　久保田さんと河合さんはもう大学を離れてます。今の状況は？

久保田　現在は校友会の事務局で嘱託職員として勤務しています。制作は、友人と部屋を借りて共同アトリエにして、そこで制作しています。大学の設備をお借りすることもあります。今のところ、仕事と制作のバランスは取れている感じですね。

河合　今年の4月からクラフトパークでアシスタントの仕事をしています。副手時代と同じような内容なんですが、やっぱり大学の時とは勝手が違って戸惑っているところです。自分の制作は、まだペースがつかめきれていませんが、いかに狭い場所で大きな作品を作れるか（笑）考えています。

竹垣　なるほど。では、ZERO展の話になりますが、3人とも初出品でしたが、出品のきっかけは？

久保田　京都でグループ展をずっとやっているんですが、みんな忙しくなって、毎年開催してたのが隔年開催になって、作品を発表する機会が減ってきてたんです。それで公募展に出すようにしていたんですが、昨年から今年にかけて少し自信を失っていたこともあって、何にも出してなかったんです。そこにちょうどZERO展へのお誘いがあって、いい機会だなと。

大濵　私、公募展に出したことがなかったんです。普通、公募展ってどのジャンルか選択して申し込みますが、自分の作品はどのジャンルで出したらいいのか、とか色々迷ったりして。その点、ZERO展はもともとノンジャンルということもあって、出しやすいなって。

河合　私は、副手をしていた最後の一年で、色んな公募展に出しまくろうと思ってやってました。その最後の仕上げが2月のZERO展でした。ZERO展に向けた作品では、自分のずっとやりたかった型彫り、型染めを思い切りやろう、と。それにこれまで経験を積んできた臈染めも加えて、新しい挑戦のつもりで。もう他人の評価とか気にせず、やりたいこと詰め込んで、いちばん自由に無心で作った作品（※表紙参照）ですね。それが大賞に選ばれたのは、本当に驚きでした。

竹垣　それぞれの思いを込めて出品してくれたんやね。
それで展示自体はどうでした？自分の作品も、他の作品も見てみて。

久保田　様々なジャンルの作品が並んでいて、単純に見ていて楽しいな、と。普通の公募展だと同じジャンルの作品が並ぶので、私の場合、版画の界隈の中でだけ考えてしまっていたということに、今回あらためて気づかされましたね。もっと自由でいいんだって。でも、一方で同じジャンルの作品が並ぶことで互いに高め合うこともできるので、ZERO展では、互いの表現に対する意見交換や、審査員の方からもっと厳しいご指摘もいただきたかったなって偉そうですけど、少しもの足りなさもありました。

大濵　自分の作品の展示に関しては、うまくいかず悔しかったです。もっと会場に合わせて作った方がいいのか、悩みどころです。あと、展示の時に、大きい脚立がもっとたくさんあればいいのに（笑）

竹垣　それは美術館に言うて（笑）

河合　本当にバラエティに富んでいて、お客さんも見ていて楽しいだろうな、と思いました。だから久保田さんの言った、作家側の技法の研究とか高め合いという面では弱いかもしれないけど、一般のお客さんに見てもらうっていう意味では、全体的にすごいいい展示で、面白いなと思います。私自身、広い意味ですごく刺激を受けました。

竹垣　最後に、それぞれの今後の目標というか、展望をお聞かせください。

久保田　とりあえず、銅版画をこれからも続けていけるだけで幸せかなって思います。今描いているテーマで自分自身にしっくりするところまで突き詰められたらいいなって思います。

大濵　自分の課題は、作品作りとの距離感をどう取っていくか、だと思っています。いかに楽しく作品作りを続けていけるか、生活とのバランスを取っていくか、考えながら、作っていきたいです。

河合　とりあえず「続ける」ことですね。またアート作品だけでなく、使える物、商品、そういう物もちゃんと作って幅を広げていきたいと思っています。

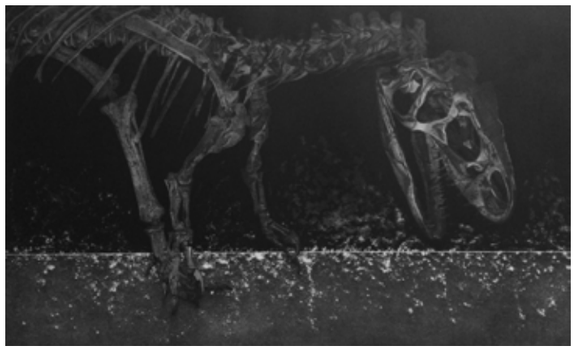
竹垣　なるほど。みんな若いし、これからの活躍を心より期待しています。今日は、本当にありがとうございました。

作家略歴

河合 芙幸　かわい・ふゆき
1991年　大阪府出身
2016年　大阪芸術大学大学院 芸術研究科 博士課程前期 芸術制作専攻 修了
2014年　五彩あやなす その2 軽薄長大と繊細巧緻（京都）
2016年　インテリアテキスタイルヤングジャパン2016（東京）、
あやなす展 Small Works -卓上風景-（伊丹市立工芸センター）、
プロジェクト京2016（兵庫）
2018年　KONANS（Relik／大阪）
2019年　出かけるアート（楓ギャラリー）、Art Loop（ai gallery）

久保田 晴名　くぼた・はるな
1989年　茨城県出身
2013年　大阪芸術大学大学院 芸術研究科 博士課程前期 芸術制作専攻 修了
2012年　第11回　南島原市セミナリヨ版画展 入選
2013年　第67回　堺市展 入選
2014年～15年　黎明展
2015年　第61回 全関西美術展 入選、アワガミ国際ミニプリント展2015 入選
2016年～草創、18・20・21展
2017年　第13回浜松市美術館版画大賞展 入選

大濵 千尋　おおはま・ちひろ
1993年　兵庫県出身
2016年　大阪芸術大学 工芸学科 テキスタイル・染織コース卒業
2016年　堺アルテポルト黄金芸術祭連携イベント参加
2017年　住まいと暮らしの道具展（ギャラリー北野坂）、帰るトコロ展（ai gallery）
2019年　出かけるアート展（楓ギャラリー）
現在　大阪芸術大学工芸学科テキスタイル・染織コース非常勤副手



▲ 新人賞／久保田晴名「軌跡」

▲ 新人賞／久保田晴名「馨りに誘われて…」

▲ 塚本学院校友会会長賞／大濵千尋「Blooming」